

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズハウスのぞみ上市			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 12日		～	2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日		～	2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者満足度が高い	子ども一人ひとりの興味・関心や好きな遊びを大切に それを支援の出発点としている。遊びの中で成功体験を積み重ねること で無理なく「できること」が増えていき、次につながるような関わり方を工夫している。	遊びや生活場面を5領域の視点で捉え、職員間で支援の意図や関わり方を共有していく。
2	子どもが楽しみに通っている	クッキングや外出行事、季節のイベント、クイズや工作など子どもの興味・関心を引き出す多様な活動を行っている。 その日の体調や気持ちに応じて参加方法を選べるようにしている。 無理に参加させるのではなく「休む」「見学する」などの選択肢を用意し、安心して過ごせる環境を整えている。	子どもの声をより支援に反映し、自己選択の機会や安心できる環境作りを充実させるとともに、職員の専門性向上と連携強化に取り組んでいく。
3	職員一人ひとりの資質の向上を図っている	外部講師による接遇研修を実施するとともに、月一回の全体会では発達支援や子どもへの関わり方について事業所研修を行い、職員一人ひとりの接遇力や支援の質の向上に努めている。	外部研修と内部研修を効果的に組み合わせ、現場課題を踏まえた事例検討や振り返りを通して、職員の資質と支援の質のさらなる向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングにつながる支援や保育者同士の交流の機会の提供が不足している。	日常的な相談対応により個別の支援は行えていたが、集団的な家族支援につなげる機会が限られていた。	必要に応じて学びの機会や交流の場を提供するなど、事業所の体制や保護者のニーズなどを踏まえ実施可能な方法で充実を図る。
2	地域の子どもと活動する機会を持つことが出来なかった。	児童館や武道館、図書館などの施設の積極的な利用や高齢者デイサービスとの交流を楽しむことが出来た一方で放課後児童クラブや児童館との連携・調整が十分に進まず具体的な交流活動の実施に至らなかった。	今年度行った活動をさらに充実させていくとともに、地域の子どもの関わりをどのような形で実現できるか職員間でアイデアを出し合い、放課後児童クラブや児童館と連携していく。
3			